平成23年度文化財講演会

浮世絵師
東洲斎写楽

日　時　平成23年8月27日(土)午後1時30分～3時

会　場　越谷市中央市民会館4階 第13～第16会議室

講　師　田辺昌子 氏(千葉市美術館 学芸課長)

◆◆◆◆◆ 次　第 ◆◆◆◆◆

1　開　会

2　あいさつ

3　講師紹介

4　講　演

5　閉　会

主催 越谷市教育委員会

共催 NPO法人 越谷市郷土研究会

平成 23 年度文化財講演会　　8 月 27 日

浮世絵師 東洲斎写楽

千葉市美術館　学芸課長　田辺昌子

【なぜ「謎の絵師」なのか】

■ 生没年等経歴

→斎藤月岑(げっしん)(天保 14 年　1844 年)『増補浮世絵類考』

「写楽　天明寛政年中ノ人　俗称斎藤十郎兵衛　居江戸八丁堀に住す　阿波候の能役者也」

→達磨屋伍一旧蔵本

「写楽は阿州候の士にて俗称を斎藤十郎兵衛といふよし栄松斎長喜老人の話なり」

※ 栄松斎長喜　浮世絵師　天明(1781-89)末—文化(1804-17)中期に活躍。生没年不詳。
寛政 6 年(1794)頃には、写楽と同じ版元蔦屋重三郎から美人画を出版している。

→法光寺(現　越谷市)の十郎兵衛の過去帳

「釈大乗院覚雲居士　八町堀地蔵橋　阿州殿御内　斎藤十郎兵衛事　行年五十八歳
千住にて火葬　文政三庚辰年　三月七日」

■ 作画期間は 1 年にもならず、またその短い期間に画風が変化している。→多くの別人説が生まれた。

■『浮世絵類考』　諸本に見る写楽に関する大田南畝と三馬の記述

→大田南畝(1749-1823)

「これまた歌舞伎役者の似顔をうつせしが、あまりに真を画かんとてあらぬさまにかきなせしかば、長く世に行われず、一両年にして止む。」

→三馬補記(式亭三馬(1776-1822)か)

「三馬云僅に半年餘行るるのみ」(渓斎英泉『无名翁随筆』天保 4 年(1833))

※ 渓斎英泉(1791-1848)
浮世絵師　文化(1804-17)末期—弘化期(1844-48)に活躍　著述もよくした。

【写楽の周辺】

■ キーパーソン　版元蔦屋重三郎

■ 寛政期(1789-1801)錦絵の人気絵師

＊蔦屋の中心絵師
喜多川歌麿(1753?-1806)→美人画

＊ その他の版元の中心絵師
鳥文斎栄之(1756-1829)→美人画
歌川豊国(1769-1825)→役者絵
勝川春英(1762-1819)→役者絵

【写楽作品の概要】

■第１期　寛政６年５月の芝居に取材した作品

都座「花菖蒲文禄曾我(はなあやめぶんろくそが)」

桐座「敵討乗合話(かたきうちのりやいばなし)」

河原崎座「恋女房染分手綱(こいにょうぼうそめわけたづな)」

「義経千本桜(よしつねせんぼんざくら)」

→大判錦絵（雲母摺）大首絵　（全２８図）

■第２期　寛政６年７、８月の芝居に取材の作品（全３８図）

７月都座「けいせい三本傘(さんぼんからかさ)」

７月河原崎座「二本松陸奥成長(にほんまつみちのくそだち)

８月桐座「神霊矢口渡(しんれいやぐちのわたし)」

「四方錦故郷旅路(よものにしきこきょうのたびじ)」

→大判錦絵（雲母摺あり）　二人立全身像など　８図

→細判錦絵　全身像　３０図

■第３期　寛政６年11月／閏11月の芝居に取材の作品など（全６４図）

11月河原崎座「松貞婦女楠(まつはみさおおんなくすのき)」

11月都座「閏訥子名歌誉(うるおうとしめいかのほまれ)」

11月桐座「男山御江戸盤石(おとこやまおえどのいしずえ)

閏11月都座「花都廓縄張(はなのみやこくるわのなわばり)」

→間判錦絵　大首絵および追善絵１３図

→細判錦絵　４７図

＊相撲絵（大判３枚続／大判１図／間判１図）３図　その他(間判１図)

■第４期　寛政７年正月の芝居に取材の作品など（全１４図）

都座「江戸砂子慶曾我(えどすなごきちれいそが)」

桐座「再魁　曾我(にどのかけかついろそが)」

→細判錦絵１０図

＊間判相撲絵２図　間判武者絵２図

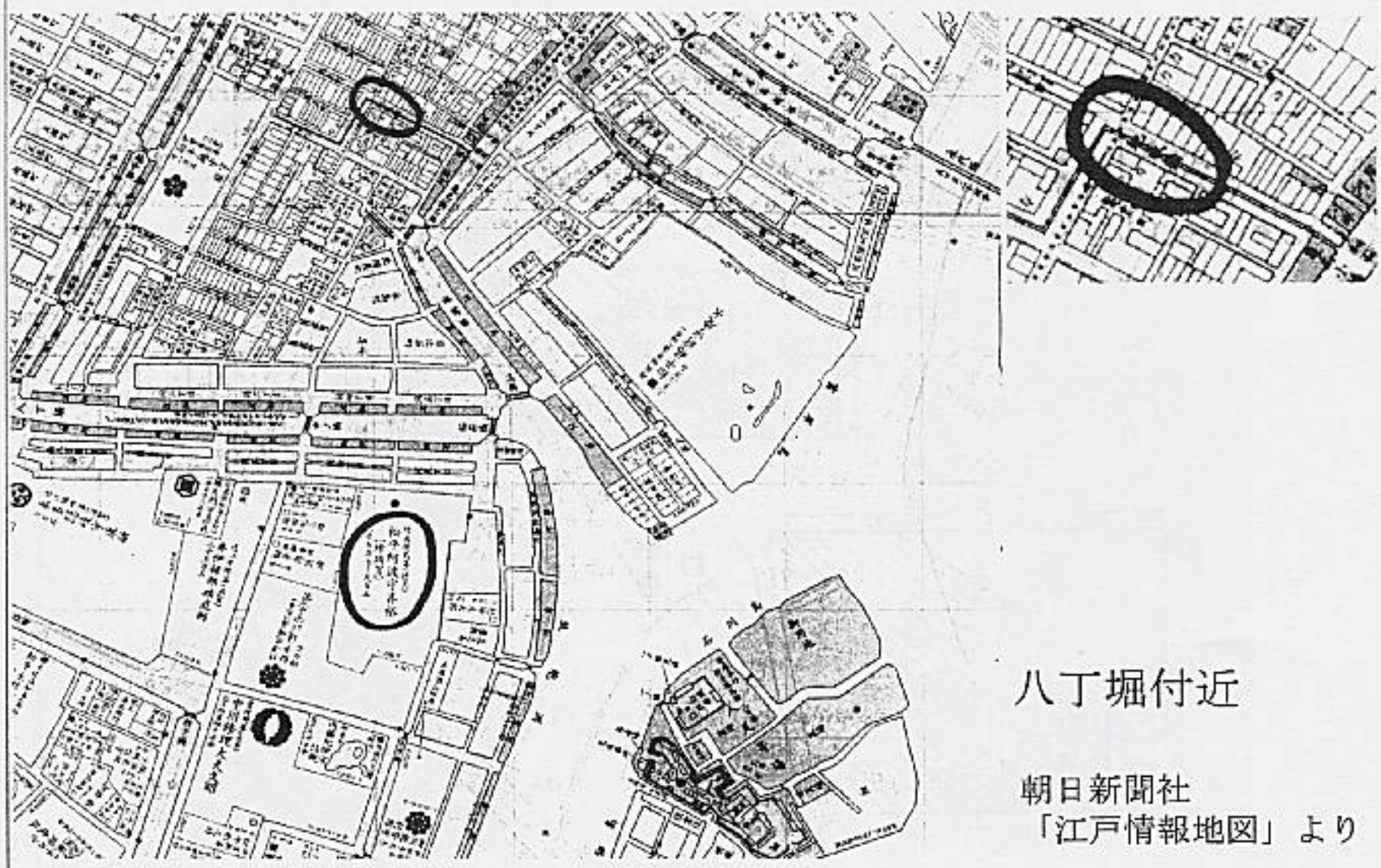
関連年表

時期	浮世絵界の動向	写楽と歌麿(?-1806)関係
宝暦3(1753)年		喜多川歌麿誕生か？
宝暦 14(1763)年		斎藤十郎兵衛誕生
明和2(1765)年	錦絵の創始。鈴木春信の活躍。	
明和7(1770)年	鈴木春信没	
明和末	勝川春章の役者似顔絵が人気。	
安永期(1772-1781)	磯田湖龍斎がこの時期を代表する美人画絵師に。	
天明期(1781-89)	鳥居清長がこの時期を代表する美人画絵師に。	
天明3(1783)年	版元蔦屋重三郎日本橋通油町に出店	歌麿、版元蔦屋重三郎から大判錦絵の美人画などを出版する。
天明4(1784)年	清長の大判錦絵の続絵制作が目立ってくる。	
天明末	役者大首絵の出版が本格的に始まる。	歌麿、『画本虫撰』など彩色摺絵入狂歌本の代表作、大判錦絵3枚続を蔦屋から出版する。(寛政2年頃まで)
寛政2(1790)年	改印制度がはじまる。	
寛政3(1790)年	蔦屋重三郎処罰される。	
寛政4(1792)年		歌麿、寛政三美人を主題とする。美人大首絵を手がけるようになる。歌麿の美人画が全盛期に。
寛政5(1793)年	錦絵出版界に対する規制が厳しくなる。	
寛政6(1793)年	この頃歌川豊国の役者絵人気となる。	東洲斎写楽の役者絵出版(寛政7年正月頃まで)。
寛政9(1797)年	蔦屋重三郎没(48歳)	
寛政12(1800)	大首絵は何かと目立つので、今後止めるようにとのお触れが出る。	
文化1(1804)年		歌麿『絵本太閤記』関連の作品で処罰。
文化3(1806)		歌麿9月20日没(54歳？)
文政3(1820)年		斎藤十郎兵衛没(58歳)

平成23年度文化財講演会

浮世絵師　東洲斎写楽

千葉市美術館　学芸課長
田辺昌子



八丁堀付近

朝日新聞社
「江戸情報地図」より

東洲斎写楽
「市川鰕蔵の竹村定之進」
寛政６年(1794)5月
大判錦絵　東京国立博物館蔵

東洲斎写楽「大谷鬼次の江戸兵衛」
大判錦絵　寛政6年5月
千葉市美術館蔵

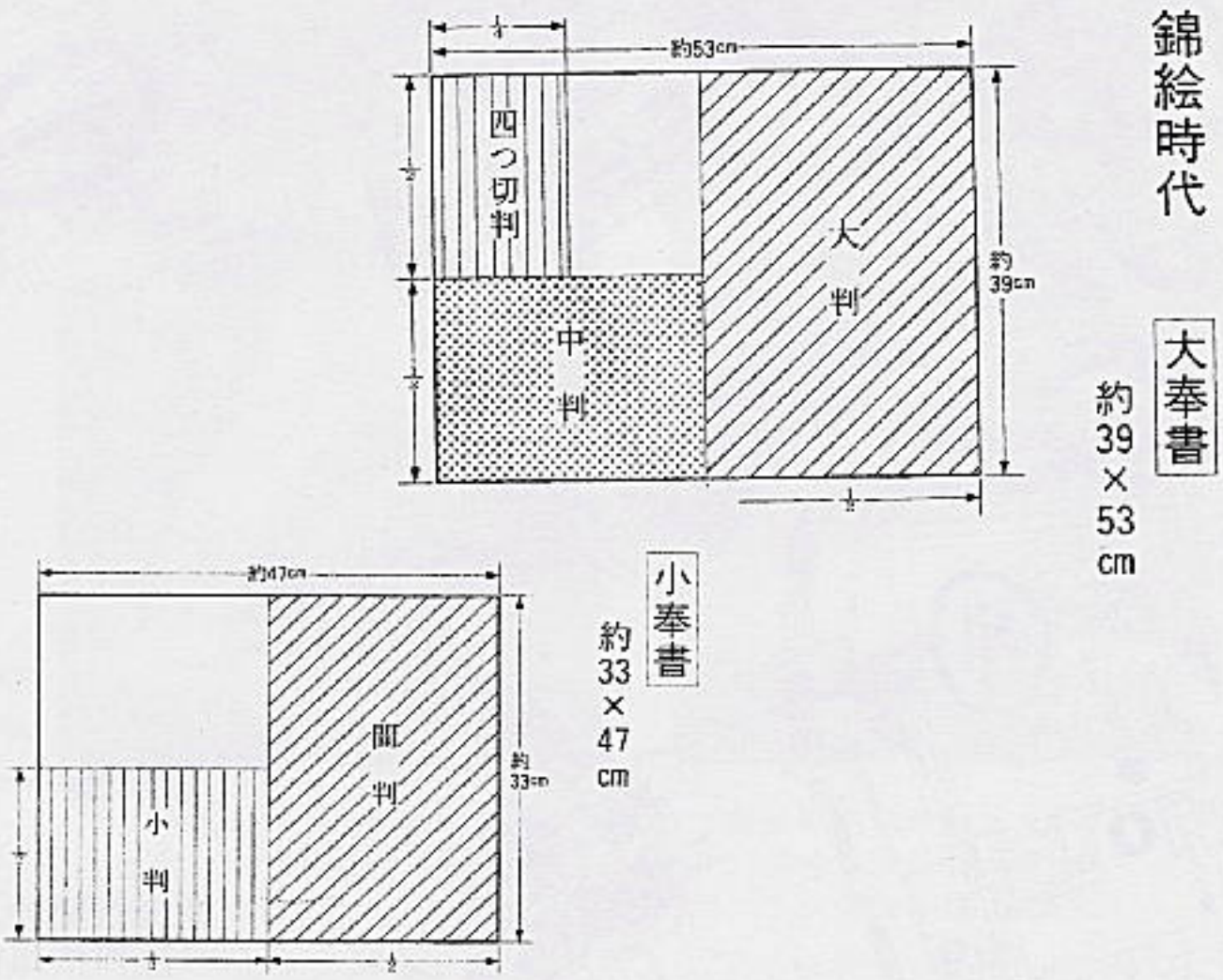
東洲斎写楽「市川男女蔵の奴一平」
大判錦絵　寛政6年5月
ボストン美術館蔵

辻番付「恋女房染分手綱」
寛政6年

(右)鳥居清長
「二代目市川高麗蔵の
工藤左衛門」
細判紅摺絵　明和9年(1772)
ボストン美術館蔵

(左)喜多川歌麿
「初代芳沢いろは
すしや娘おさと」
細判錦絵　安永6(1777)年
*初期は「北川豊章画」の署名

東洲斎写楽
「中島和田右衛門のぼうだら長左衛門と中村此蔵の舟宿かな川やの権」
寛政6年5月　大判錦絵



柱絵

細判

間判

中判

大判

【写楽作品の四期の分類】

■第１期　寛政6年5月の芝居に取材した作品
　→大判錦絵（雲母摺）大首絵　（全２８図）

■第２期　寛政6年７、８月の芝居に取材の作品（全３８図）
　→大判錦絵（雲母摺あり）　二人立全身像など　８図
　→細判錦絵　全身像　３０図

■第３期　寛政6年11月／閏11月の芝居に取材の作品など（全６４図）
　→間判錦絵　大首絵および追善絵１３図
　→細判錦絵　４７図
　＊相撲絵（大判３枚続／大判１図／間判１図）３図　その他(間判1図)

■第４期　寛政７年正月の芝居に取材の作品など（全１４図）
　→細判錦絵１０図
　＊間判相撲絵２図　間判武者絵２図

写楽4期の代表例

第4期細判

第3期細判

第2期細判

第1期大判

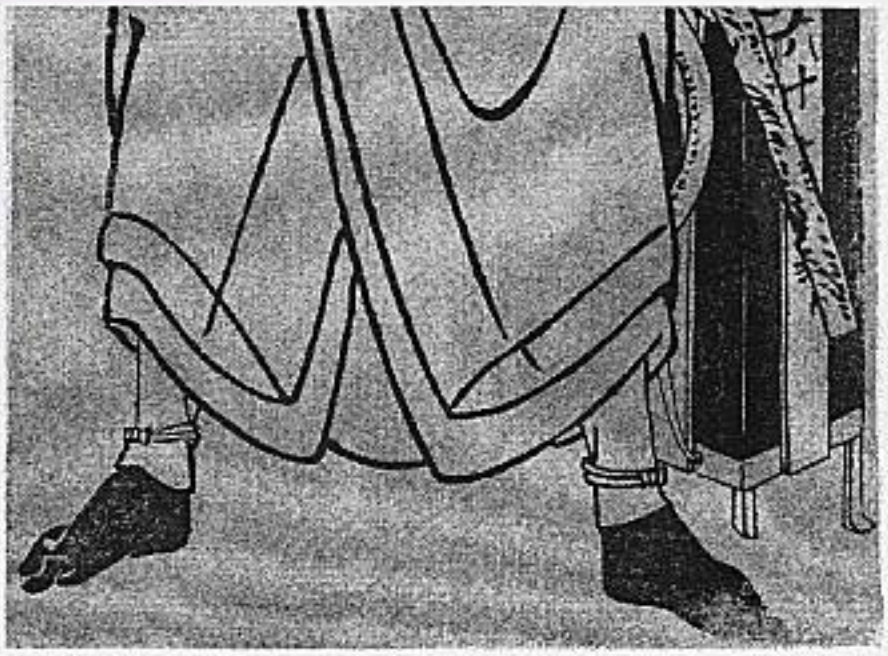
東洲斎写楽「四代目松本幸四郎の大和のやぼ大じん　実は新口村孫右衛門　初代中山富三郎の新町のけいせい梅川」大判錦絵　寛政6年8月（第2期）

東洲斎写楽「三代目瀬川菊之丞傾城かつらぎ」細判錦絵
寛政6年7月
（第2期）

東洲斎写楽
「市川鰕蔵の廻国　修行者良山、実は安部貞任」
細判錦絵　寛政6年11月
（第3期）

東洲斎写楽
「三代目瀬川菊之丞傾城かつらぎ」細判錦絵
寛政6年7月　（第2期）

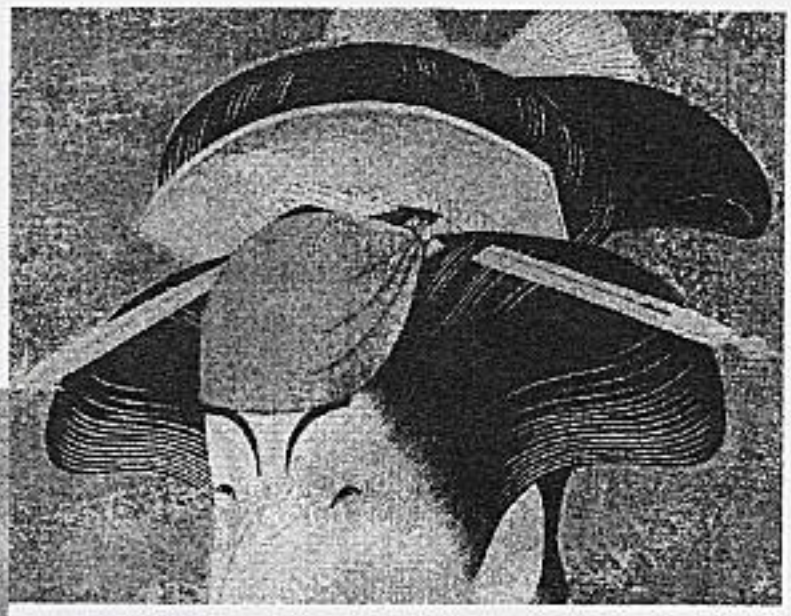
東洲斎写楽
「市川鰕蔵の廻国　修行者良山、実は安部貞任」
細判錦絵　寛政6年11月
（第3期）



東洲斎写楽「近江屋錦車　中山富三郎のおひさ」
間判錦絵　寛政6年11月（第3期）

東洲斎写楽「中山富三郎の宮城野」大判錦絵
寛政6年5月（第1期）

東洲斎写楽「近江屋錦車　中山富三郎のおひさ」
間判錦絵　寛政6年11月（第3期）



東洲斎写楽「中山富三郎の宮城野」大判錦絵
寛政6年5月（第1期）

歌川豊国(1769-1825)
「役者舞台之姿絵　まさつや
二代目中村仲蔵の才蔵才若　実は荒巻耳四郎金虎」
大判錦絵　寛政6年（1794）11月
ボストン美術館蔵

東洲斎写楽「二代目中村仲蔵の
才蔵才若　実は荒巻耳四郎金虎
大判錦絵　寛政6年（1794）11月
（第３期）

歌川豊国(1769-1825)
「役者舞台之姿絵　まさつや　二代目
中村仲蔵の才蔵才若　実は荒巻耳四郎金虎」
大判錦絵　寛政6年（1794）11月